

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0173501255		
法人名	有限会社 ワームサポート		
事業所名	グループホーム ひだまりの家		
所在地	室蘭市御崎町2丁目10番19号 (電話) 0143-23-2800		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年3月17日	評価確定日	平成21年4月30日

【情報提供票より】 (平成21年2月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 17年 4月 6日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	17人, 非常勤0人, 常勤換算17人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	3階建ての	2~3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 10,000円 暖房費(10~3月) 5,000円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (45,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要 (2月2日 現在)

利用者人数	17 名	男性	8 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低 72 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	カレスアライアンス日鋼記念病院・大川原脳神経外科病院 ふじかね内科医院・J FUKUDA DENTAL CLINIC 他
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ひだまりの家」は、J R御崎駅から坂を上り徒歩5分ほどの住宅街の一面にある、2ユニットのグループホームである。運営者は30年に渡り学習塾を経営し、子ども達の育成に励みつつ、高齢化率の高い室蘭市の地域性を考え、平成17年に事業所を設立している。ケアの質は職員の力によるところが大きいので、今後は福利厚生などをより充実させていきたいと考えているところである。管理者は人生の先輩としての利用者の尊厳を護り、思いや意向を把握することでその人らしい生活を支援していきたいと考えている。月に数回ドライブに出かけたり、カラオケ同好会、大正琴、マンドリン演奏などのボランティアの訪問があり、白鳥大橋を背景に打ち上げられる港祭りの花火大会では、地元の人々と花火を楽しむなど地域に密着したグループホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員を育てる取り組み、同業者との交流を通じた向上、重度化や終末期に向けた方針の共有については、現在も取り組みを継続している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価については、各々の職員が日常のケアを通して考えをまとめ、各ユニットの全体会議で意見交換をし、管理者が文章化している。自己評価を行ったことで「尊厳のある暮らし」という理念に立ち返り、言葉遣いの見直しをしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	市内の複数の事業所が公共施設を会議場所として、2ヶ月毎、同一建物内の個別の会議室で開催している。事業所から運営者、介護支援専門員、職員が参加し町内会役員、民生委員、家族代表と2ヶ月間の活動報告、緊急時における地域協力・連携、外部評価、家族からの意見などについて話し合いをしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、写真やイラストを多用した「ひだまりの家通信」を発行し全体的な利用者の暮らしぶりを伝え、家族等から喜ばれている。預かり金と支出については領収書を添え、出納報告をしている。運営推進会議や来訪時に家族等の意見、不満、苦情を把握するように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、神社で行われる祭りには利用者が浴衣を着てカラオケを唄ったり、文化展では、貼り絵を出展し見学をしている。事業所主催の夏祭りでは、ポスターを町内の掲示板に貼り、地元の人々と出店や職員の余興を楽しんでいる。管理者は、町内会や老人クラブを対象に認知症サポーター養成の講演をしており、介護福祉士やホームヘルパーの実習生、高校生のインターンシップの受け入れなどを通して、地域への貢献をしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成17年の開設時に職員や第三者の意見を参考に「穏やかで安らぎのある暮らし、明るく楽しく笑いのある暮らし、自分でできることは自分でやる暮らし、自分らしく誇りを持ち、尊厳のある暮らし」という理念をつくりあげている。	○	地域密着型サービスとしての役割を目指した理念を検討することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、1階正面玄関横の事務所、2階と3階の各ユニットのスタッフルーム、廊下に掲示し、役職者の名刺の裏面に記載してある。ミーティングで理念の確認をすることもあり、また、利用者と職員が掲示してある理念について話し合うこともある。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、神社で行われる祭りには利用者が浴衣を着てカラオケを唄ったり、文化展では、事業所の展示スペースが用意されているので工夫を凝らした貼り絵を出展し、見学をしている。事業所主催の夏祭りには、ポスターを町内の掲示板に貼り、地元の人々と出店や職員の余興を楽しんでいる。ボランティアの訪問も多く、介護職の実習や高校のインターンシップの受け入れも行っている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、各々の職員が日常のケアを通して考えをまとめ、各ユニットの全体会議で意見交換をし管理者が文章化している。自己評価を行ったことで「尊厳のある暮らし」という理念に立ち返り、言葉遣いの見直しをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市内の複数の事業所が公共施設を会議場所として、2ヶ月毎に同一建物内で個別に開催している。事業所から運営者、介護支援専門員、職員が参加し町内会役員、民生委員、家族代表と2ヶ月間の活動報告、緊急時における地域協力・連携、外部評価、家族からの意見などについて話し合いをしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が居宅介護支援事業所の介護支援専門員の経験があり、そのため市町村とは顔馴染みの関係がある。市主催の介護予防フェアでは市民からの相談に応じ、また市と連携を図りながらキャラバンメイトとして認知症サポーター養成の講師を勤めている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、写真やイラストを多用した「ひだまりの家通信」を発行し全体的な利用者の暮らしぶりを伝え、家族等から喜ばれている。預かり金と支出については領収書を添え、出納報告をしている。ユニット間での異動については、通信や来訪時に報告しているが離職については報告はしていない。	○	通信などを活用し、一人ひとりの利用者の暮らしぶりや健康状態、離職等による職員の交代を報告することができるよう、期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来訪時に家族等の意見、不満、苦情を把握するように努めている。苦情箱を設置しているが利用されていない。誕生会などの行事は、家族が参加し易いよう日程を調整している。出された意見は、申し送りノートへの記入や口頭の説明で職員間での情報を共有している。	○	更に家族等の意見が運営に反映されるよう、記録の工夫について検討することを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年の1年間は、ユニット間での異動はない。利用者と職員は、日常的に各ユニットを訪問し交流を持っているので職員の交代による利用者のダメージはない。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者や職員の段階に応じた研修計画は立てていないが、全職員に研修を受けさせることを目標としている。次のステップとして職員の段階に応じた研修を選んでいきたいと考えている。外部研修は勤務扱いとし感染症の予防や排泄の介助方法などについて受講している。	○	外部研修に参加した職員が報告書などを作成することで、職員間で研修の内容を共有することができるよう、期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、室蘭市グループホーム連絡会に参加し職員の研修の機会として年2回事例発表の場を設けている。管理者や職員は、2ヶ月毎に開催される西胆振広域連絡会に属し、センター方式などの勉強会をしている。他事業所の職員が実習に来ることはあるが当事業所の職員が訪問する体制は整えられていない。	○	職員が他の事業所を訪問することで得られる気づきがサービスの質の向上につながるので、その実現を期待したい。また、管理者の呼びかけで市内の事業所に勤務するケアマネジャーのネットワーク作りを予定しているということなので、その実現を期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用の相談を受けた場合は、本人、家族に見学を勧め、入院中であっても可能な範囲で見学することを勧めている。見学時は、お茶を用意しソファで寛いでもらうことで「ひだまりの家」の雰囲気を感じられるようにしている。1泊の体験入居を実施し、馴染みながらのサービス利用に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から戦争の体験を聞くことで自分の知らなかった日本の歴史や生活の知恵、苦難を乗り越えて生きてきた利用者の強さ、それぞれの人生、現在の平和などについて考えている。便秘の利用者に排便があると喜び、テレビで事件が報道されると怒り、喜怒哀楽を共にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の症状として思いや意向を表現することが難しいという事実を認識し、日々のケアを通して会話や表情、行動などから思いを把握するように努めている。その時に発せられた言葉や表情の意味を考え、難しい場合は、家族や医師と話し合いながら本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用開始時の介護計画は、家族や医療関係者、以前入居していた施設などからの情報を基に、利用者の状況を把握して職員で意見交換を行って暫定計画を作成している。作成した介護計画は、家族の来訪時に説明して署名を貰ったり、来訪の少ない家族には、郵送して電話で説明をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、介護記録や夜間日誌、連絡ノートなどを活用して3ヶ月毎に見直しを行っている。入退院や歩行状態の変化など身体状況に変化が生じた場合は、随時計画を見直し、現状に即した新たな計画を作成し、家族に報告して承認を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週1回訪問看護ステーションから看護師が訪問して、利用者の健康管理を行っている。行きつけの美容室の送迎や、お墓参り、買い物など利用者の希望に応じて柔軟な支援を行っている。町内の独居のお年寄りの相談にも乗っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医は、家族や利用者の希望で継続は可能である。症状が安定している時は、家族の希望でかかりつけ医に紹介状を書いて貰い、協力医療機関に変更する事もある。受診は、家族の送迎時も職員が同行するようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する事業所の方針は、入居時に口頭で説明している。事業所の方針として、医療行為が発生した時は入院による治療としている。現在は事業所で看取りを希望している家族はいない。医療連携体制加算を取る時に、文書を作成する予定である。	○	事業所としての重度化や終末期の対応について方針を文書化して、入居時に説明するように期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	子供扱いや命令的な言葉使いなど、利用者の自尊心を傷つけような接し方をしないように配慮している。排泄誘導も、「ちょっと散歩に行きましょう」などと言葉かけをして誘導するように配慮している。個人記録は、スタッフルームの書棚で鍵をかけて保管している。	○	リビングに置いてある個人台帳は、目隠しをして第三者の目に触れないような工夫ををするよう期待したい。面会簿は、個人情報の保護の面からも、個別のカード式などに変更するよう期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や水分摂取の時間、体操など一日の流れは決まっているが、一人ひとりのペースで過ごせるように支援している。カラオケやトランプ、カルタなどをしたり、他のユニットの利用者と将棋を楽しむなど、希望に沿って過ごせる様に支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、ホーム長が1週間単位で作成している。誕生日やクリスマスの時は、利用者の希望を聞いたり、麺類やパンが嫌いな利用者にはご飯に変えるなど、楽しく食事ができるように配慮している。野菜を洗う、モヤシの根取り、食器洗い、食器拭きなど、利用者の状況に応じて手伝って貰っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日午後に行い、一人週2回以上は入浴できるように工夫している。おしゃれに関心のある利用者が入浴を拒否した時に、入浴後に、髪を整える事を楽しみにスムーズに入浴する事ができた例もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除機をかける、拭き掃除をする、他の利用者が混乱した時にだめるなど、役割を持って生活している。畑仕事や花火大会、職員が行うライブなど、楽しみを持って生活できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は、週2回程2～3人のグループで散歩にかけたり、裏庭でおやつを食べながら外気浴をしている。1ヶ月に数回、洞爺湖や登別、地球岬などにドライブ出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため施錠するが、日中は施錠はしていない。2階と3階の各ユニットの出入り口にセンサーを付けて、利用者の出入りを把握している。1階の玄関にはセンサーを付けていないが、事務所がある事で、常に見守りができるようになっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春の訓練には、町内会役員にも参加してもらい、消防署の協力のもと年間2回避難訓練を行っている。	○	今後は、夜間を想定した避難訓練と、隣接している住民への避難訓練への参加を呼びかけて行きたい意向なので、その取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、協力医療機関の栄養士に、年間2～3回栄養バランスのチェックを受けている。水分は、食事以外に1000ccを目標に、利用者が楽しんで水分を飲めるようにお茶だけでなくジュースや乳酸菌飲料などで変化をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に日差しが入ると、利用者に言葉かけをしてロールカーテンで光を調節するなど、利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。桜など季節感を表す装飾が施され、対面式の台所からは、食事の支度の様子や匂いを感じる事ができ生活感が感じられる様になっている。廊下の端には、椅子を置いてゆっくり過ごす事が出来る様な工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には花の名前が付いており、表札代わりに花の絵が飾られている。各居室にはナースコールが設置され、ベッドも事業所で準備している。箆箆や椅子などの家具や使い慣れた物が持ち込まれていて、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。